

教授

岡部 明仁

■ 学歴

1. 1999 年 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科博士後期課程 研究指導認定退学

■ 学位

1. 2001 年 博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学）

■ 研究分野

1. 神経科学
2. 神経生理学
3. 神経解剖学
4. 自律神経機能
5. 呼吸生理
6. 病態生理

■ 研究キーワード

- 1.
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）
2. Cl⁻共輸送体
3. 細胞内 Cl⁻濃度
4. 呼吸リズム
5. 延髄
6. 摂食・満腹中枢
7. 視床下部

■ 担当授業科目

1. 生物と生命科学（前期）（栄養学科） 選択
2. 解剖生理学（前期）（栄養学科） 必須
3. 人体の構造と機能基礎実習（分担・前期）（栄養学科） 必須
4. 解剖学（前期）（福祉学科） 選択
5. 応用生理学（後期）（栄養学科） 必須
6. 解剖生理学実習（後期）（栄養学科） 必須
7. 初年次セミナーII（分担・後期）（栄養学科） 必須

8. 生理学（後期）（福祉学科） 選択
9. 管理栄養士演習Ⅰ（分担・通年）（栄養学科） 選択
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【生物と生命科学】 毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識がでないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。
2.	授業科目名【解剖生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。
3.	授業科目名【人体の構造と機能基礎実習】 後半10回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、前年度のデータを使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらい、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
4.	授業科目名【解剖学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
5.	授業科目名【応用生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めってもらうため、可能な限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
6.	授業科目名【解剖生理学実習】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて

	伝えた。
8.	授業科目名【生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
9.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 講義スライドを全て資料として配布した。過去4年分の国家試験の過去問から、解剖生理にかかわる分野の問題を抽出し、解説を行った。また、国家試験模試の該当分野を用いて頻出問題を提示し、その解説を行った。解説を行う際、ただ正答を示すだけでなく、誤答についても詳細な説明を行い、知識の拡充に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年7月～現在に至る	日本生理学会	評議員（2002年4月～現在に至る）
2.	2001年10月～現在に至る	日本解剖学会	代議員（2019年3月～現在に至る）
3.	1996年7月～現在に至る	日本神経科学会	
4.	1999年11月～2023年11月	北米神経科学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024年7月	Reduced gene expression of KCC2 accelerates axonal regeneration and reduces motor dysfunctions after tibial nerve	共著	Neuroscience Volume 551	① ヘテロ接合性 KCC2 ノックアウト (HT) マウスと野生型 (WT) マウスの脛骨神経を損傷した。HT マウスでは、運動機能障害および ChAT (Ach 合成) の低下はそれほど重症ではなかった。EM および免疫染色により、変性、再生、髄鞘形成が速まっていることが明らかになった。神経損傷は、HT マウスにおける KCC2 の減少をより早期かつ長期間にわたって引き起こす可能性がある。KCC2 発現の低下は GABA/Gly

		severance and suturing			興奮を介して軸索再生を促進する可能性はある。 ② 共著者名： Hironobu Ando, Chigusa Shimizu-Okabe, Nobuhiko Okura, Tsukasa Yafuso, Yoshinori Kosaka, Shiori Kobayashi, Akihito Okabe and Chitoshi Takayama ③ P55-68
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	周産期運動機能発達における抑制性神経伝達物質グリシンの役割	日本学術振興会	○（清水千草） （荒田晶子） 岡部明仁	4,680,000	
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月 1 日～現在に至る	動物実験委員会	副委員長
2.	2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	人事委員会	副委員長
3.	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	学習支援（1 年生担当）	委員